



平成 27 年 5 月 9 日 愛知県自転車安全教育推進委員会 主催

「自転車安全教育指導員講習会」

日時； 平成 27 年 5 月 9 日（土）午前 9 時 30 分 ～ 午後 3 時（予定より 1 時間早く終了）

場所； 平針運転免許試験場内 運転者講習センター（講義：第 2 教室・実技：二輪車コース）

受講対象者：各地域の行政または警察署・交通安全協会から推薦を受けた者

県下各地域の交通安全協会職員・交通指導員・小中学校教諭・警察官・縣市町村職員

自転車販売店関係者等で、指導力があり交通安全教育活動に協力できる人（各地域 1～2 名）

参加者： 約 60 名・年齢層は主に中高年

OSCN からの参加： OSCN 代表 片山 昇（※尾張旭市役所市民活動課より推薦）

同地域/守山警察署管内からの参加： 3 名（※OSCN 1 名含む）

《講義》 午前の部

講義 1（15 分）：自転車安全整備点検制度（TS マーク）について 講師：一財 愛知県交通安全協会職員

講義 2（60 分）：自転車関係法規と自転車事故防止について 講師：愛知県警察本部 安全教育担当官

講義 3（25 分）：自転車の安全な乗り方「基本走行と安全走行の実技演習」について 講師：交通安全普及所 講師

講義 4（5 分）：第 50 回交通安全子ども自転車愛知県大会の実施等について 講師：一財 愛知県交通安全協会職員

（片山感想）TS マークについては、TS が Traffic Safety（交通安全）の略称であり、赤 TS マークと青 TS マークの 2 つのタイプがあるということ始めて学んだ。また、このマークは、安全整備の証であるだけでなく、特に赤 TS マークは、賠償責任保険金限度額 5,000 万円まで付帯されている。青よりも限度額が高い。自転車店で整備した時、赤を貼ってもらうとよいそうだ。こういったマークの存在・意義・内容（有効期限や整備費用による色の違い等）を知らせる広報なども一般の自転車利用者に向けて、十分に実施される必要があると感じた。

《実技》 午後の部

講師：愛知県交通安全協会 交通安全普及所 講師

実技 1（15 分）：基本操作 動作説明

実技 2（70 分）：応用操作 コース走行実践（1 周約 5 分/1 人：波状路・障害物・一本橋・クランク・踏切等）

（片山感想）交通安全協会出版の自転車の交通安全ブックに即した、従来からの基礎基本的な自転車の乗り方についての指導と、そのルールに沿った各自の走行体験であった。子ども自転車大会の内容と同様、右左折時の手信号や踏切での徒歩横断等があった。再度、乗車ルールの必要性有効性を再検証し、現在の自転車の状況や交通状況に即した実践的な指導内容、日本全体で共通内容としてどのように教え、確実に普及していくのか、を再考すべき時がきていると思った。

☆ 参加レポート 片山まとめ ☆

自転車事故状況・保険・安全利用・乗車技術を伝える指導者を増やすことは大変有意義だが、若い世代（20 代・30 代）の参加が少なかった。交通教育の将来に向け、若い世代の指導者の当事者意識も大切だ。愛知県でも自転車事故の 8 割に、自転車側の法令違反が原因との県警本部の方のお話だったので、やはり基礎的学校教育（小・中）段階からの一貫した交通ルールやマナーについての指導が必要だと思う。

